

日農イッポンD1キロ粒剤 51

[ダイムロン・ピラクロニル・ブロモブチド・ベ
ンスルフロンメチル粒剤]

農林水産省登録	第22452号
有効成分	ダイムロン…4.0%ピラクロニ ル…2.0%ブロモブチド…6.0%ベ ンスルフロンメチル…0.51%
性 状	類白色細粒

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称） 危険物：- 有効年限：5年 包装：1kg×12、
4kg×4 RACコード：除草[0][14][30][2]

特長

- ノビエからSU抵抗性広葉雑草まで幅広く効く新規有効成分のピラクロニル、SU抵抗性ホタルイに効果の高いブロモブチド、多年生雑草に安定した効果を示すベンスルフロンメチルを配合した高性能タイプの水稲用初中期一発処理除草剤です。
- 田植同時処理が可能です。
- 除草効果の発現が速い薬剤です（速効的）。

効果、薬害等に関する注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意する。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカは発生前、クログワイ、コウキヤガラ、オモダカは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- クログワイ、コウキヤガラ及びオモダカに使用する場合には、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用する。
- 苗の植付けが均一となるように代かきをていねいに行う。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行う。
- 本剤を移植時に散布する場合には、所定量を均一に散布できる田植同時散布機を使用する。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意する。また、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさける。
 - 1)砂質土壌の水田及び漏水田（減水深2cm/日以上）
 - 2)軟弱な苗を移植した水田
 - 3)極端な浅植の水田及び植付不良で根が田面に露出している状態
- 直播水稲に使用する場合は以下に注意する。
 - 1)稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。
 - 2)除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布する。
- 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用をさける。
- 散布後に低温傾向が続くと予想される時には、雑草に対する効果が劣ることがあるので注意する。
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤を無人ヘリコプターで散布する場合は次の注意を守る。

- 1) 散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
 - 2) 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
 - 3) 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
 - 4) 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。
 - 5) 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないように十分注意する。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。
 - いぐさ栽培予定水田では使用しない。
 - 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。
 - 散布田の水田水を他の作物に灌水しない。
 - 容器等は圃場などに放置せず、適切に処理する。
 - 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用する。特に初めて使用する場合や異常気象時は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意する。
- 散布後は水管理に注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ダイムロンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ ミズガヤツリ ウリカワ クログワイ コウキヤガラ オモダカ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)
		移植時			田植同時散布機で施用	
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	イネ出芽揃～ノビエ2.5葉期 ただし、収穫90日前まで			湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	2回以内

ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数	ベンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

製品写真



最新の登録内容はこちら

